



# ふくいの水産業基本計画



2020

計画期間

令和2年度～令和6年度

2025

令和2年3月策定

福井県

# 目次

## 策定の趣旨

1	福井県水産業の現状	.....	1
2	これまでの成果	.....	8
3	新たな計画の必要性	.....	9
4	基本理念と水産業の目指す姿	.....	10
5	数値目標	.....	10
6	推進期間	.....	10

## 重点戦略

I	新技術を活かした生産拡大	.....	12
II	次世代型漁業の創生	.....	16
III	消費・流通の拡大と漁村の活性化	.....	20

# 策定の趣旨

## Ⅰ 福井県水産業の現状

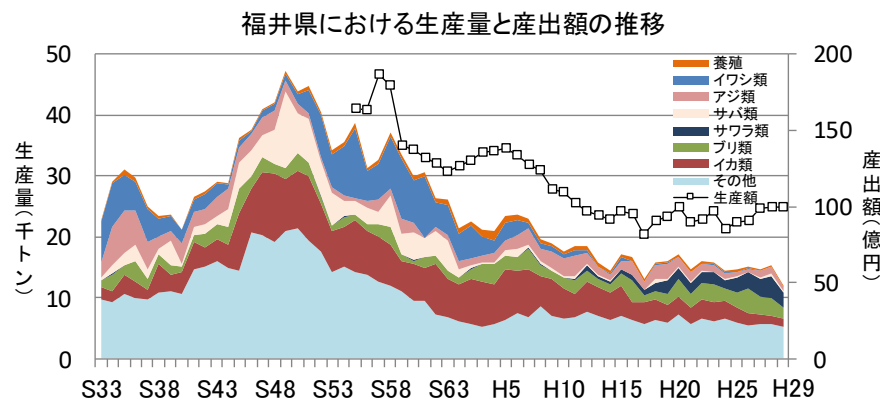
### (1) 生産量・産出額

#### ①概況

本県水産業の生産量は、昭和49年の47千トン进行ピークに、減少傾向にあります。

産出額は昭和57年の187億円进行ピークに減少し、近年80～90億円の水準で推移してきましたが、平成28年以降は100億円に達しています。

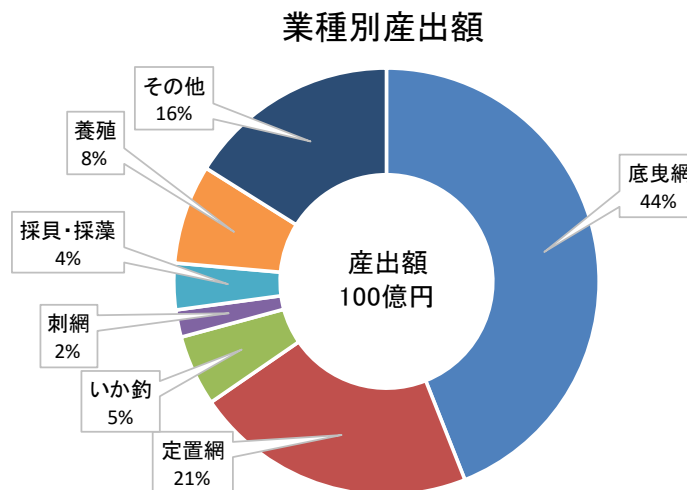
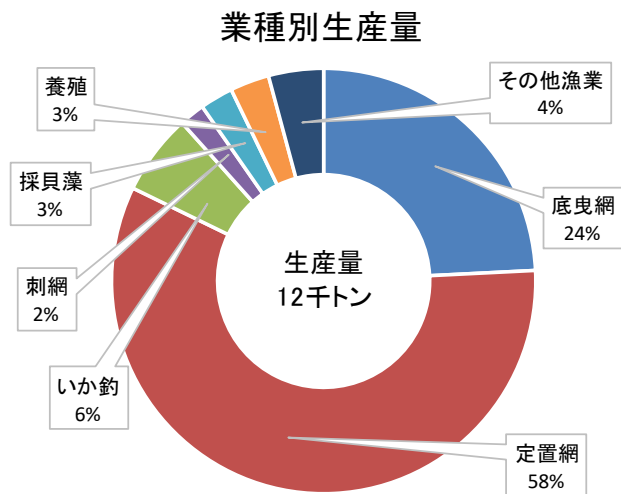
平成29年の生産量は12千トン、産出額は100億円で、それぞれピーク時の約26%、約53%となっています。



出典：農林水産省統計、水産課資料

#### ②漁業生産構造

生産量を漁業種別にみると定置網漁業が全体の約6割、底曳網漁業が2割程度を占めています。また、産出額では底曳網漁業が4割、定置網漁業が2割程度を占めており、本県の基幹漁業となっています。

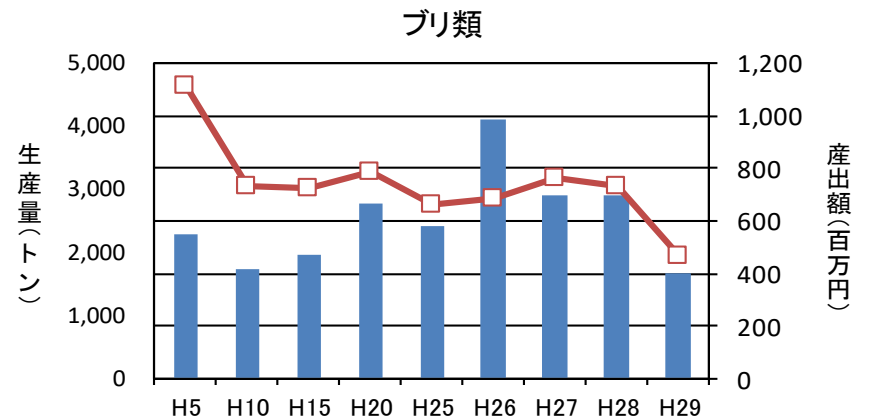
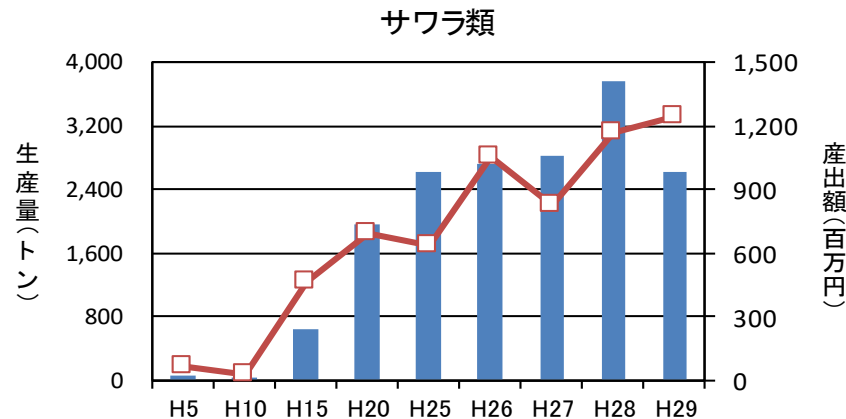
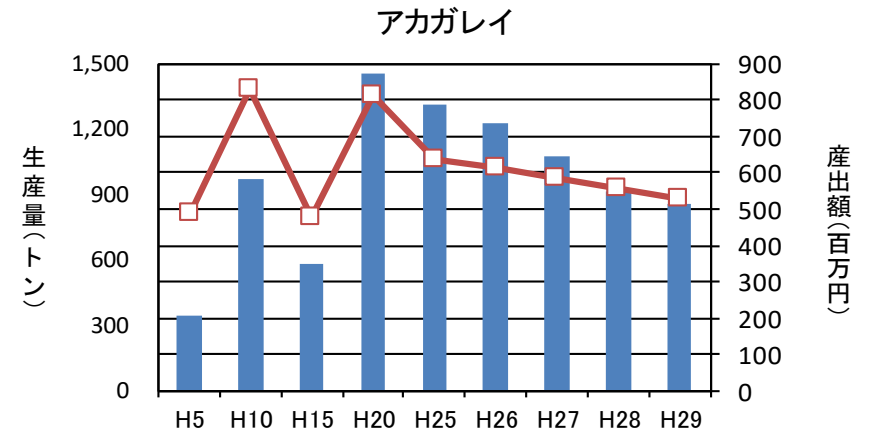
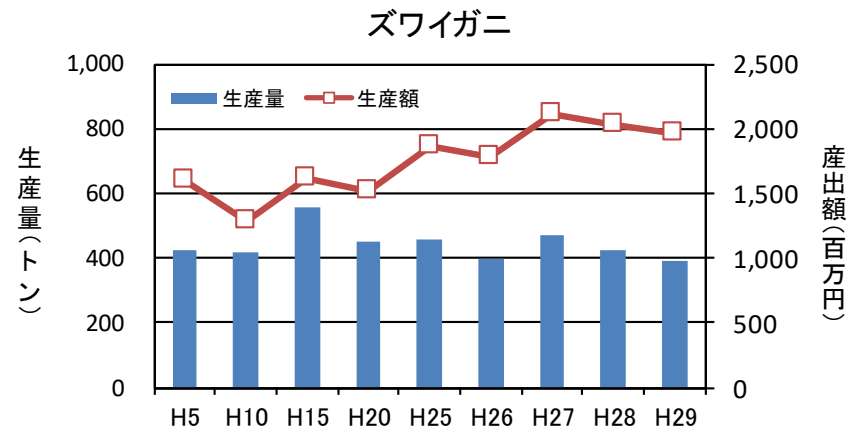


出典：農林水産省統計、水産課資料

# 策定の趣旨

## ③主要漁獲魚種の傾向

本県の主要漁業である底曳網漁業、定置網漁業の主な対象である4魚種の生産量・産出額の動向をみると、ズワイガニの生産量は減少傾向ですが産出額は増加傾向、アカガレイの生産量と産出額は共に減少傾向、サワラ類の生産量と産出額は共に増加傾向、ブリ類の生産量は増減が大きく産出額は減少傾向となっています。

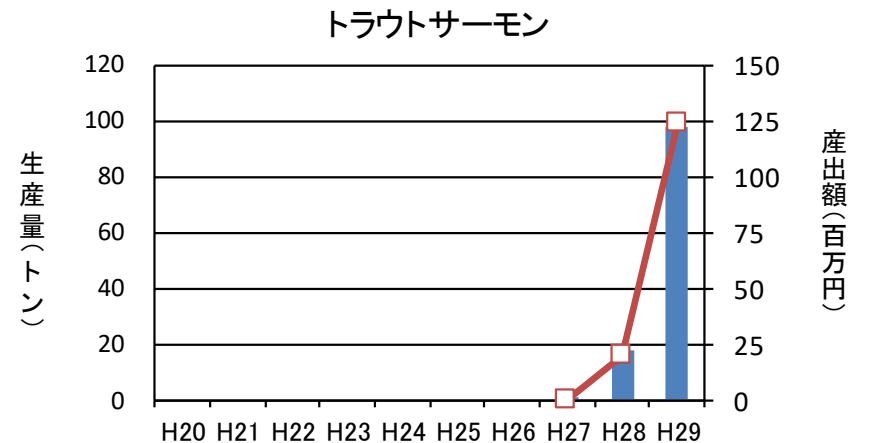
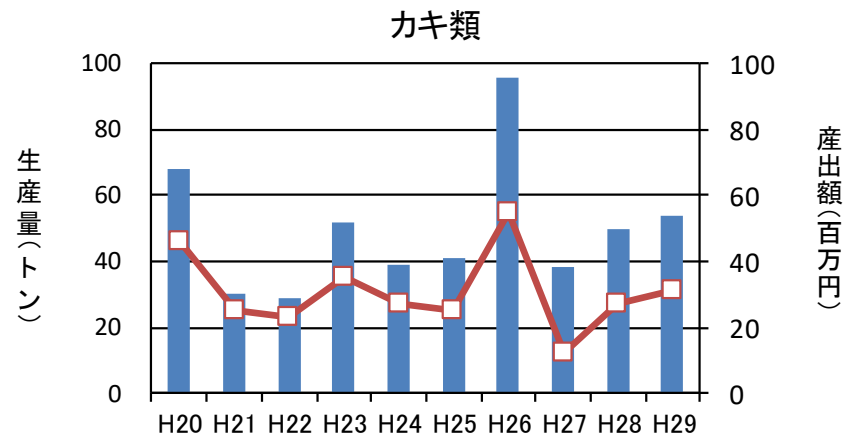
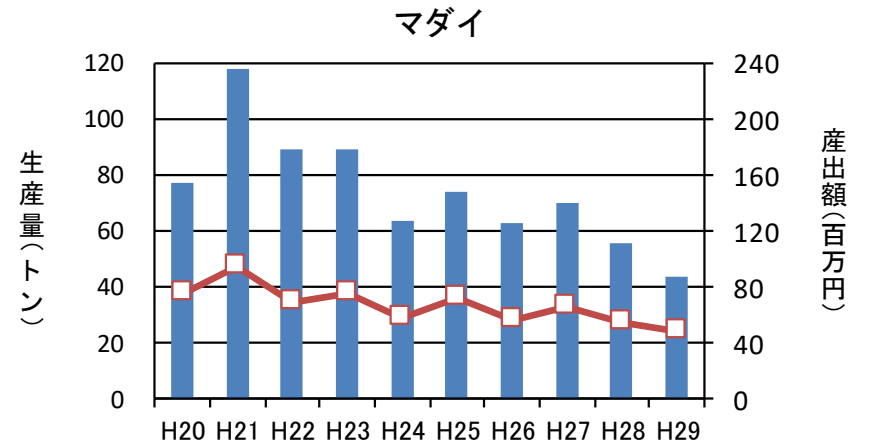
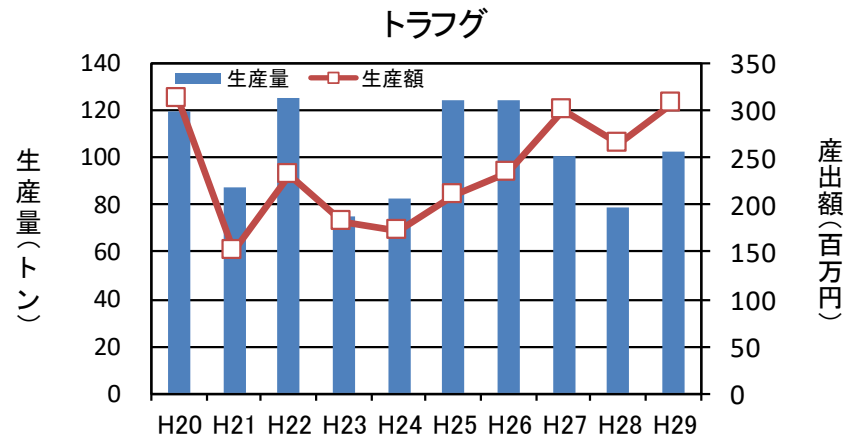


出典：農林水産省統計、水産課資料

# 策定の趣旨

## ④主要養殖魚種の傾向

本県の主要養殖魚種は、トラフグ、マダイ、カキ類、トラウトサーモンです。それぞれの生産量・産出額の動向をみると、トラフグの生産量は増減があり産出額は増加傾向、マダイの生産量と産出額は共に減少傾向、カキ類の生産量と産出額は共に増減がみられるものの横ばい傾向です。平成27年度から生産が始まったトラウトサーモンの生産量と産出額は共に大幅に増加しています。



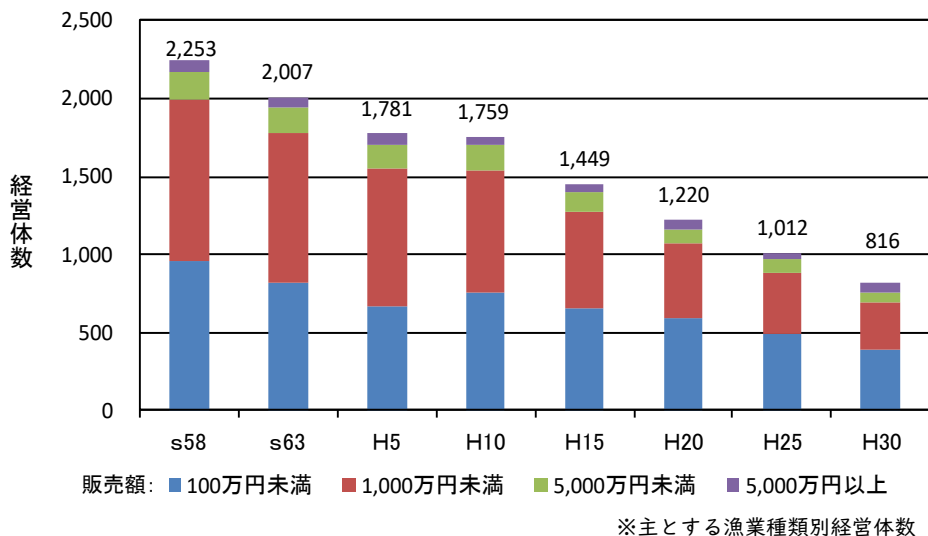
# 策定の趣旨

## (2) 経営体

経営体数は減少傾向にあり、平成30年は816経営体で、平成20年の約70%、平成10年の約46%に減少しています。販売額別にみると、8割以上は1,000万円未満の経営体ですが、一方で、5,000万円以上の経営体は、平成25年の46経営体から平成30年の53経営体へと増加しています。

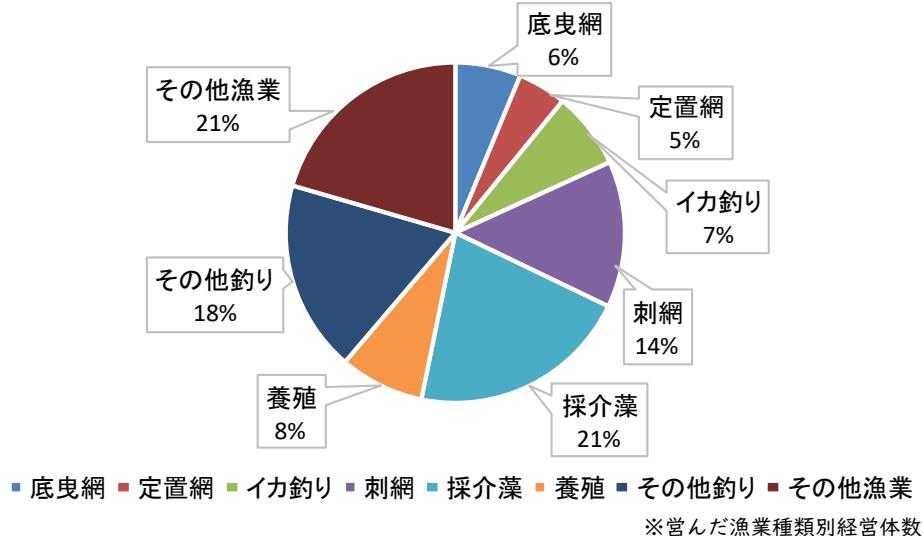
漁業種類別にみると、経営体の7割以上を刺網漁業や採介藻漁業等の小規模経営体が占めており、県の主要漁業である底曳網漁業と定置網漁業は、あわせて1割程度です。

販売額別経営体数の推移



出典：漁業センサス

漁業種別経営体の割合 (H30)



出典：漁業センサス

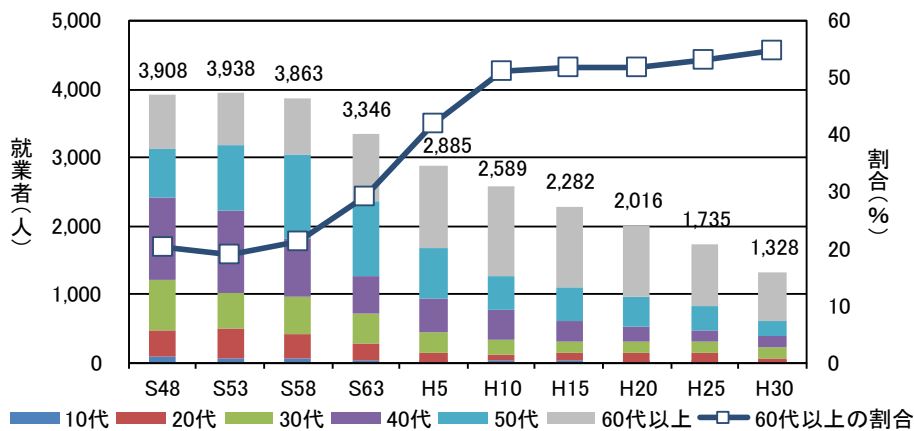
# 策定の趣旨

## (3) 漁業就業者

漁業就業者数は減少しており、平成30年は1,328人で、平成20年の約65%、平成10年の約50%に減少しています。その内、60才以上は728人で全体の約55%を占めており、20年前から漁業就業者の約半数が60才を超えています。

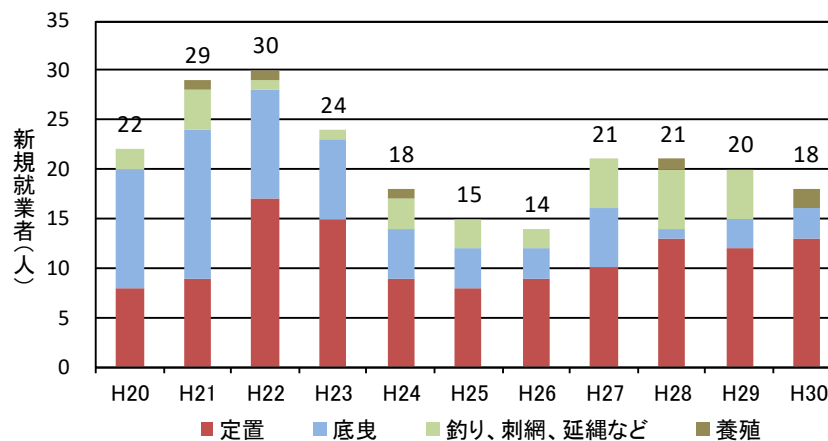
新規就業者数は平成23年から減少傾向にありましたが、ふくい水産カレッジを開校した平成27年を境に増加し、毎年20人前後で推移しています。漁業への新規就業は、定置網漁業や底曳網漁業に雇用される形態が主であり、新たに独立した経営を開始する者は稀です。

年齢別就業者数の推移



出典：漁業センサス

漁業種別新規就業者数の推移



出典：水産課資料

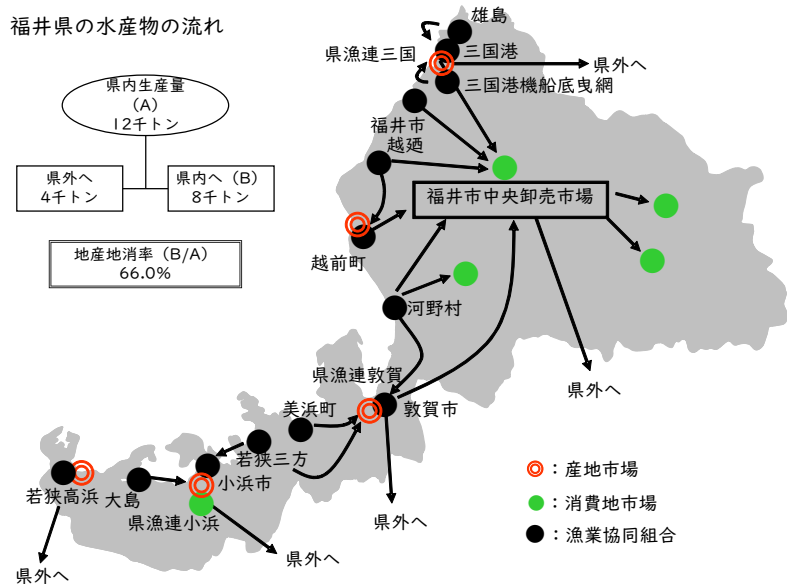
# 策定の趣旨

## (4) 水産物の流通

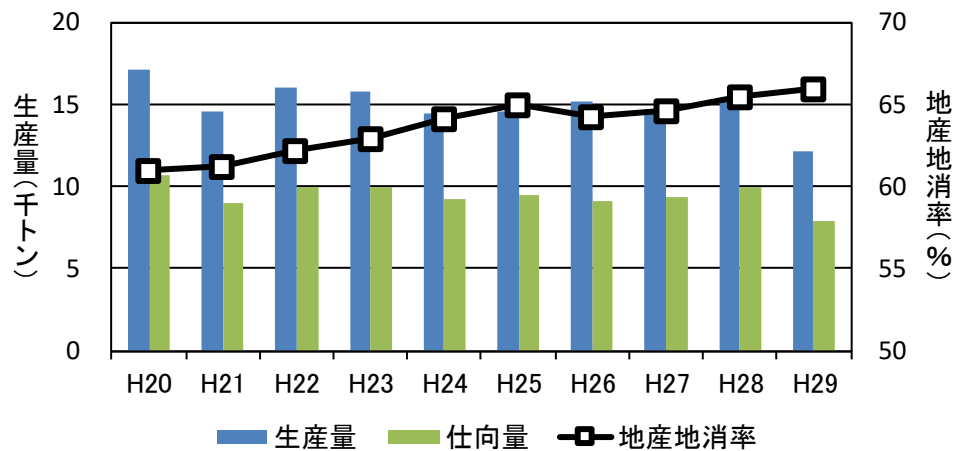
県内の水産物は5か所の産地市場に水揚げされ、福井市中央卸売市場や各地の消費地市場を經由して県内外へ出荷されます。また、一部は市場を經由せずに直接県外に出荷されるなど、複雑な経路で流通しています。

県内生産量は約12千トンで、その内、県内には約8千トンが出荷され、平成29年の地産地消率（県内仕向率）は66%となっています。

福井県の水産物の流れ



水産物の県内生産量と地産地消率



出典：水産課資料



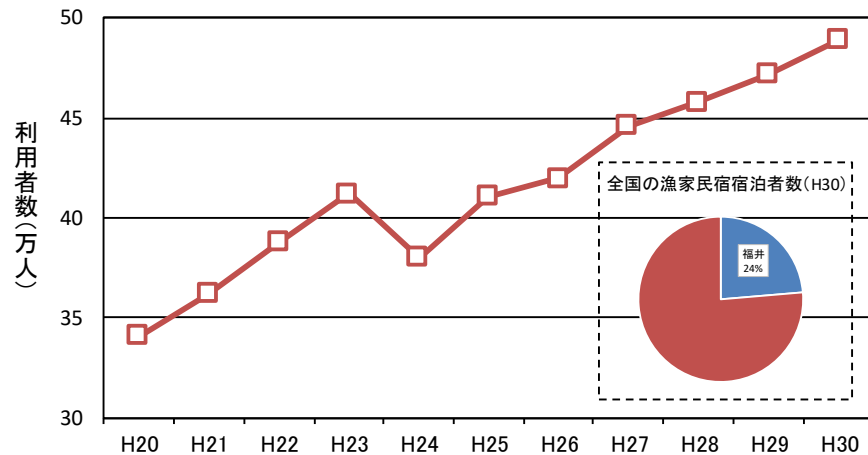
# 策定の趣旨

## (5) 水辺への誘客

本県の漁家民宿の経営体数および宿泊者数は国内で最も多く、共に全国の約2割を占めています。魚価の変動に左右されず、漁の閑散期にも収入が見込めるなど、漁家経営を支える重要な産業となっています。

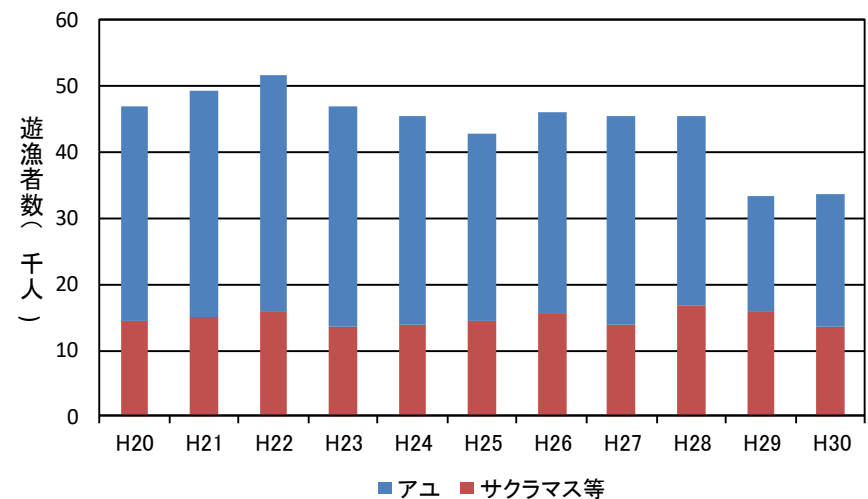
嶺北を流れる九頭竜川は流域面積2,930km<sup>2</sup>を誇る1級河川であり、県内外問わず多くの遊漁者が訪れます。6月～11月はアユ、2月～5月はサクラマス等の遊漁で賑わっています。

### 県内の漁家民宿利用者数の推移



出典：漁業センサス、水産課集計

### 県内の内水面遊漁者数の推移



出典：水産課集計

# 策定の趣旨

## 2 これまでの成果

平成27年3月に策定した「ふくいの水産業基本計画」では、平成31年度（令和元年度）までの5年間で安定的な生産の実現、販売チャンネルの拡大と地魚消費量の増大による浜値の向上、操業・経営の合理化によるコスト削減、豊かなさとうみ資源を活用した経営の多角化に取り組みました。

### (1) 生産量の増大プロジェクト

- ・海底地形と「越前がに」の分布量の関係を解明し、福井県沖におけるズワイガニ好漁場マップを作成（H28～）
- ・新たな魚種として「ふくいサーモン」の養殖に着手し、121トン（H30）を生産
- ・磯根資源の増大を目的に累計でアワビ29万5千個、サザエ25万9千個を放流（H27～）
- ・定置網の改良を16統、底曳網漁船の建造を6隻支援し、漁業者の経営基盤を強化（H28～）
- ・先端技術の開発と産業支援、人材育成を目的に県、県立大学、市町、漁協、民間企業等が「ふくい水産振興センター」を小浜市に設立（R1）

### (2) 浜値の向上プロジェクト

- ・水産物の産出額は91億円（H26）から100億円（H30）まで増大
- ・福井県漁連の敦賀水産加工施設の新設とHACCP認定を支援し、地魚加工品の供給を促進（H28～）
- ・最上級ブランド「越前がに極」を販売（H27～） 最高値（1杯）：46万円
- ・GI（地理的表示）の登録 「若狭小浜小鯛ささ漬」（H29）、「越前がに」（H30）

### (3) 操業・経営のスマート化プロジェクト

- ・潮の向きや速さをリアルタイムにインターネット配信し、出戻り操業の削減に貢献（H27～）
- ・底曳網やイカ釣り漁船100隻に省エネエンジン・機器を導入し、経費削減を推進（H27～）
- ・「ふくい水産カレッジ」を創設し、経営感覚に優れた若手漁業者を19名育成（H27～）

### (4) ふくいのさとうみ55万人プロジェクト

- ・漁家民宿の設備改修を支援し、民宿の売り上げは36億円（H26）から40.1億円（H30）に増加
- ・漁業体験施設における教育旅行の受入れ増加が評価され、数々の賞を受賞（オーライ！ニッポン大賞ほか）
- ・「ふくいアユ」の中間育成施設を整備し、200万尾放流体制を確立（H29）
- ・サクラマス資源の増大を目指し、種苗の生産と放流を実施

# 策定の趣旨

## 3 新たな計画の必要性

平成31年度（令和元年度）まで取り組んできた現行計画の推進期間が終了することから、これまでの成果をステップとし、情勢の変化（本県を取り巻く高速交通体系の変化、新漁業法による資源管理の強化など）や次に掲げる課題を考慮し、新たな計画を策定することとします。

### （1）資源管理の強化

天然の魚は、資源量の変動や来遊状況の変化により漁獲量の増減が大きく、計画的に生産量を増やすことは難しい状況にあります。底曳網漁業や磯根漁業は、定着性魚種が漁獲の対象であることから、資源管理を行うことにより持続的利用を図ることが可能です。また、定置網漁業においても、資源が危機的な水準にまで減少したクロマグロの資源管理が求められるなど、資源管理と効率的な操業への転換が喫緊の課題となっており、平成30年12月に改正された漁業法においても資源管理が強く打ち出されています。

### （2）養殖魚ニーズの拡大と多様化

養殖については、世界的に生産量が増えている中、本県では、国内でも特に人気の高いトラウトサーモンを「ふくいサーモン」として県内4か所で生産するとともに、新魚種マハタの生産技術を確立し、今後の生産拡大に向けて県産種苗の安定供給がますます重要となっています。また、消費者のニーズが多様化し、少量多品種を高品質に提供することが求められています。

### （3）スマート水産業への転換

近年、IoTやAIによる技術革新、ドローンやロボット技術の発展が目覚ましく、水産業にも最先端技術の導入が始まっています。水産業の成長産業化を図るためには、これまでの経験と勘に頼る漁業からデータに基づく効率的な漁業への転換が必要です。

### （4）担い手不足

高齢化による就業者の減少がさらに進むことが予測されるため、県外からの移住も視野に入れた担い手の確保が必要です。あわせて、漁業を魅力的な職業に転換するため、漁家経営の安定と就業環境の改善が必要です。

### （5）交流人口の増加への対応

令和5年春の北陸新幹線福井・敦賀開業に向けて、県内の水産物の流通・販売体制を見直す必要があります。増加する交流人口を見据えて地魚の認知度向上を図り、訪れた観光客に様々な場面でアピールするとともに里海湖の魅力を最大限に活かした誘客への取組みが必要です。

# 策定の趣旨

## 4 基本理念と水産業の目指す姿

(1) 基本理念：「福井の海をフル活用！」豊かな浜の暮らしを実現

本県の豊かな水産物を県民に安定的に供給するためには、「持続可能な世界を実現するための開発目標（SDGs）」の理念を鑑み、限られた天然資源を最大限かつ持続的に利用するとともに、生産をコントロールできる養殖業の拡大が必要です。IoTやAIなどのスマート化技術を活用した効率的な漁業への転換を進めるとともに、若者からベテランまですべての漁業者が活躍できる環境の整備と拡大する交流人口の里海湖への誘客を促進し、漁村地域の活性化を推進します。

(2) 福井県水産業の目指す姿

- 新技術を活用した養殖生産の拡大と天然資源の持続的利用
- スマート水産業の推進と担い手の育成による生産力の向上
- 交流人口増加を見据えた地魚の販売促進と漁村地域の魅力の最大化

## 5 数値目標

	(H30)		(R6)
○漁業産出額	100億円	→	110億円 (10%増)
うち養殖産出額	8億円	→	15億円 (+7億円)
○スマート水産業の実践	—	→	30経営体
新規就業者			100人 (5年間)
○里海湖への交流人口	52万人	→	57万人 (10%増)

## 6 推進期間

令和2年度から令和6年度まで（5年間）

# 重点戦略

## I 新技術を活かした生産拡大

### 1. 新たな手法による里海湖の幸の生産拡大

- (1) 先端技術を活用した養殖生産の拡大
- (2) 漁港の未利用エリアを活用した貝類等の増養殖

### 2. 天然資源の持続的利用を推進

- (1) ふくいが誇る「越前がに」の資源増大
- (2) 資源にやさしい操業システムの確立

## II 次世代型漁業の創生

### 1. スマート水産業による漁家所得の向上

- (1) I o T ・ A I 等を活用した操業の合理化
- (2) 競争的操業から計画的操業への転換

### 2. 浜を守る担い手づくり

- (1) 次代を担う若手漁業者の育成
- (2) 漁業者の働く環境の改善

## III 消費・流通の拡大と漁村の活性化

### 1. 地魚の戦略的販売

- (1) 新たな流通販売システムの構築
- (2) オリジナル食材の開発とブランド力の強化

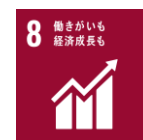
### 2. ふくいの里海湖の賑わいづくり

- (1) 渚の魅力を最大限に活かした誘客促進
- (2) 川と湖の賑わいづくり

## 【関連するSDGs】



**4. 質の高い教育をみんなに**  
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



**8. 働きがいも経済成長も**  
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および働きがいのある人間らしい仕事を推進する



**9. 産業と技術革新の基盤をつくろう**  
強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



**11. 住み続けられるまちづくりを**  
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



**12. つくる責任 つかう責任**  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する



**14. 海の豊かさを守ろう**  
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

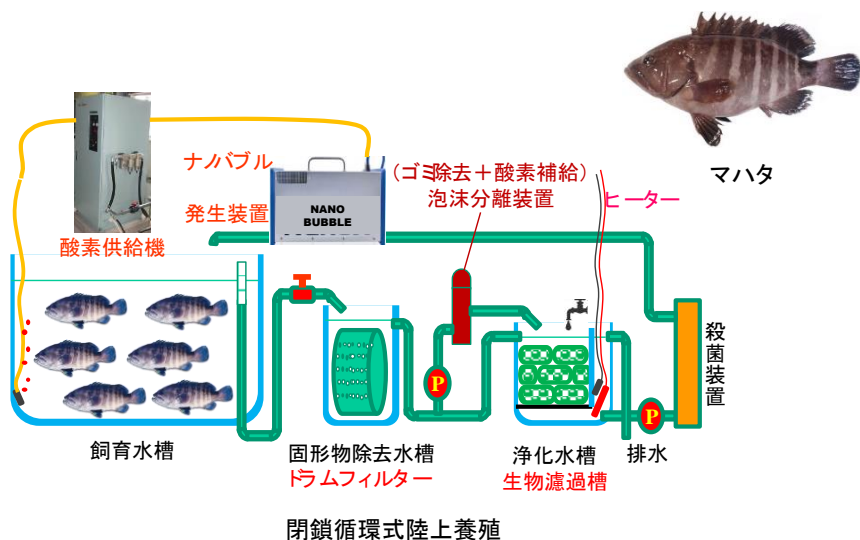
### (1) 先端技術を活用した養殖生産の拡大

- ・閉鎖循環システムを活用した陸上養殖を推進します。
- ・種苗の大型化や魚病対策など、県産種苗を安定して供給する体制を確立します。
- ・養殖による環境負荷を軽減するため、複合養殖への転換を推進します。
- ・先端技術の開発や県産種苗の生産に必要な施設を整備し、学術研究の加速化と産業支援の充実を図ります。



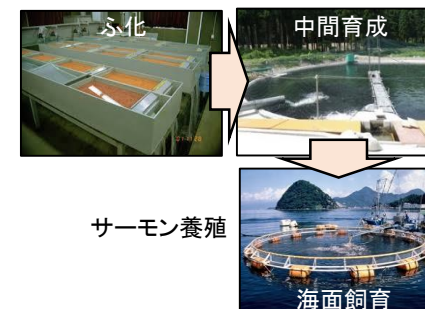
#### ○マハタ養殖の拡大と陸上養殖技術の開発

- ・新しい養殖魚「マハタ」は、県産種苗の生産を開始し、順次養殖生産を拡大
- ・安心・安全・安定な生産を目指すため、水温や気象に影響されず病気や寄生虫の心配もない陸上水槽による養殖技術の開発を推進



#### ○県産種苗によるサーモン養殖の拡大

- ・県内でふ化・中間育成した種苗を安定確保するとともに、より大型で病気にも強い種苗育成技術を開発し、安定した養殖生産体制を確立



#### ○複合養殖技術の開発

- ・環境負荷の軽減と生産性の向上による漁場の有効活用を図るため、ふくいサーモン、サバ、若狭ふぐなどの魚類養殖生簀の下で残餌等を利用したナマコやカキ・ワカメなどの複合養殖を実用化



複合養殖

#### ○ふくい水産振興センターの活用

- ・産学官の連携により、地域産業に役立つ学術研究の推進と種苗の安定供給による産業支援および水産技術者の育成を総合的に実施し、新しい産業の創出と地域の活性化を推進



### (2) 漁港の未利用エリアを活用した貝類等の増養殖



- ・ 冬季の波浪のため養殖に適さないとされてきた嶺北地域でも、比較的静穏な漁港内の未利用水域を活用し、カキ類やウニなどの増養殖を推進します。
- ・ 漁港内の海底にナマコ保護礁を設置し、親ナマコの産卵とふ化後の稚ナマコの生育を保護します。
- ・ 本県沿岸の環境に適した品種の選抜により、養殖生産の安定化を図ります。

#### ○カキ類

- ・ 既存の防波堤やテトラポッドなどを利用して、稚貝を張り付けて育成
- ・ シングルシードによるカゴ飼育技術を導入し、限られたスペースを最大限に活用
- ・ 収穫後は殺菌海水による一定時間の飼育を行い、生食が可能な状態で出荷



カキのカゴ養殖

#### ○ウニ

- ・ 大型に育つアカウニは、漁港内で地撒き養殖
- ・ 小型のバフンウニは、効率的なカゴ養殖で生産し「越前雲丹」を増産
- ・ 夏の高水温を避け計画的に生産するため、半循環式の陸上養殖技術を確立



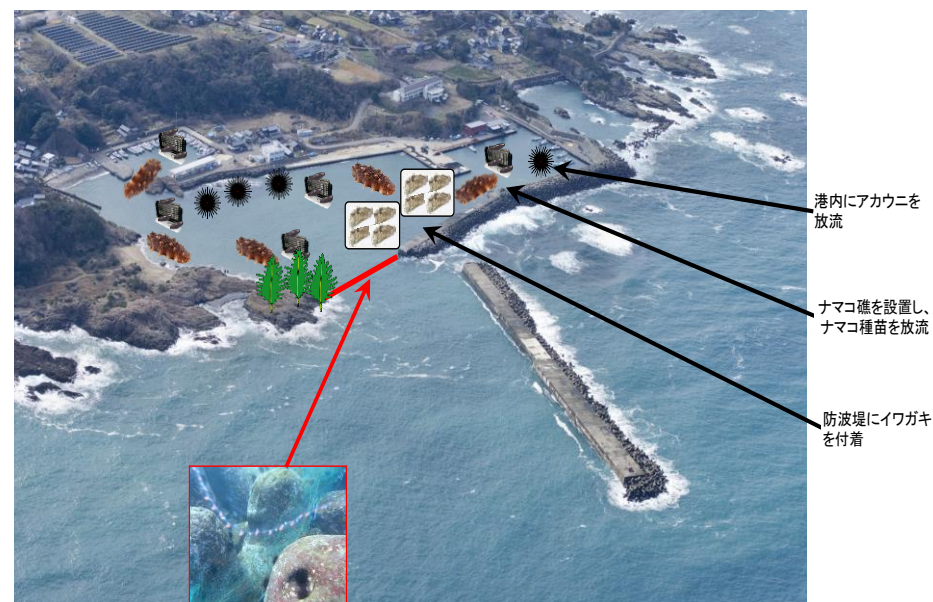
ウニの半循環式養殖

#### ○ワカメ

- ・ 本県沿岸の環境に適した品種の選抜により養殖生産の安定化を図り、単位収穫量を増大

#### ○ナマコ

- ・ 外敵による食害から守るための貝殻保護礁を海底に設置し、稚ナマコを育成



港口に流出防止フェンスを設置

## 2. 天然資源の持続的利用を推進

### I 新技術を活かした生産拡大

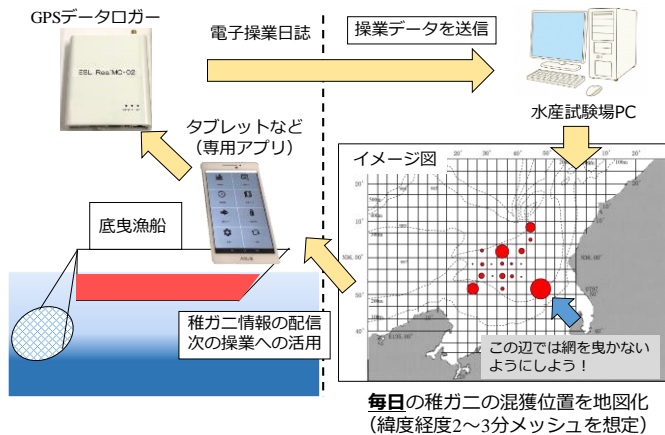
#### (1) ふくいが誇る「越前がに」の資源増大

- ・ 稚ガニの多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム（デジタル操業日誌）を構築し、稚ガニの混獲を防ぎます。
- ・ 海底に溝を掘り（=作漥<sup>さくれい</sup>）稚ガニの隠れ家を造成することにより、資源の増大を図ります。
- ・ 雌ガニの生息密度が減少している保護礁海域において、環境改善による再生産力の回復を図ります。



#### ○デジタル操業日誌を活用した資源管理

- ・ 漁獲対象となる前の稚ガニの混獲を防ぐため、操業中に混獲した稚ガニの情報を漁業者が共有するシステム「デジタル操業日誌」を漁船に搭載
- ・ 稚ガニの多い海域をリアルタイムで海図に表示することで、操業海域を変更し混獲を回避



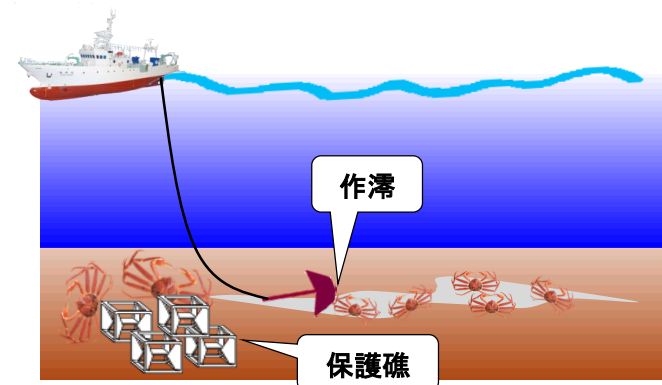
デジタル操業日誌システム

#### ○海底作漥<sup>さくれい</sup>による漁場造成

- ・ カニの多い海域に特徴的な地形（=溝）を人為的に作成し、漁場を造成する技術（=海底作漥）を開発
- ・ 作漥技術を漁業者へ移転し、従来から実施されてきた海底耕耘と合わせ、漁場生産力の向上により資源を増大

#### ○保護礁の海底環境改善

- ・ 雌ガニの生息場所である保護礁の海底環境を改善し、再生産力を回復





## 2. 天然資源の持続的利用を推進

### (2) 資源にやさしい操業システムの確立

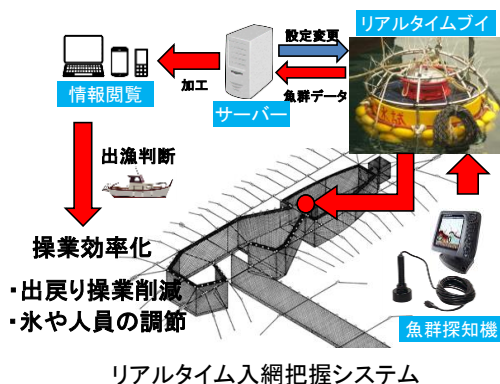


- ・定置網に魚群探知機を取り付け、陸上から24時間モニタリングすることで、効率的な操業を推進します。
- ・資源評価に必要な情報を継続して収集するとともに評価結果を速やかに漁業者へ提供することにより、的確な資源管理を推進します。
- ・自然災害等による漁場環境の悪化について、原因究明と再生方法を検討し、環境改善と資源回復に努めます。また、外来魚の駆除や漁場の造成などにより、河川や湖の水産資源を守ります。

#### ○定置網における入網把握システムの導入

- ・定置網に取り付けた魚群探知機により、入網した魚の種類や量をスマートフォンなどで陸上からリアルタイム監視

- ・ブリなどの重要魚種が入網したタイミングに合わせて出漁したり、資源管理に必要なマグロが入った場合には休漁するなど、効率的な操業を推進



#### ○的確な資源管理の推進

- ・資源管理に必要な魚種毎の情報を継続して収集し、評価結果を速やかに漁業者へ提供することにより、実効性の高い資源管理計画を策定

#### ○磯根漁場の保全

- ・磯根漁場の環境改善と資源回復を図るため、藻場の造成や種苗放流などを実施
- ・監視カメラやドローンなどのICT機器により、近年増加傾向にある密漁への対策を強化



アワビの放流

#### ○内水面漁場の環境改善

- ・アユやサクラマスなどの生息環境を改善するため、関係機関が連携して原因究明と環境再生を実施
- ・産卵場の造成や魚道の整備・改修などにより、川や湖の水産資源の回復を推進
- ・外来生物の駆除により、在来水産生物の保護を推進



産卵場の造成

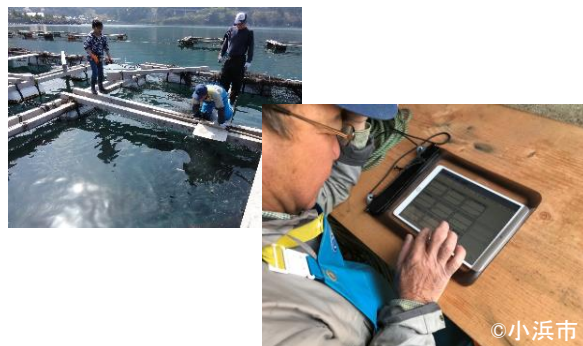
### (1) IoT・AI等を活用した操業の合理化



- ・IoTにより常時収集した養殖海域の環境データ（水温・塩分・潮流など）と、給餌量や成長量との相関を解析し、AIによる自動給餌養殖システムを開発します。
- ・リアルタイム観測機器による漁海況情報を漁業者へ提供し、効率的な操業を推進します。
- ・魚種やサイズを選択する操業方法の推進〔再掲〕  
（定置網：入網把握システム、底曳網：デジタル操業日誌）

### ○漁場環境に最適化した飼育モデルの確立

- ・常時収集した海域の環境データおよび給餌量や成長量のデータをディープラーニングにより解析することで、漁場環境に最適化されたサバ等の飼育モデルを確立
- ・飼育モデルを組み込んだAI自動給餌システムを開発することにより、経験と勘に頼ってきた養殖から合理的かつ効率的な養殖へ転換



養殖へのIoTの活用

### ○漁海況観測体制の高度化

- ・定置網や養殖生け簀などに水温や潮流のリアルタイム観測ブイを設置し、本県沿岸域の海況情報ネットワークを構築
- ・水中ドローンや操業中の漁船から魚群の来遊状況をリアルタイムに収集・分析するシステムを構築し、漁場探索を効率化



リアルタイム観測ブイ



### (2) 競争的操業から計画的操業への転換



- ・ 漁獲量と魚価の変動に応じて出漁日や操業時間を決めるなど、漁獲量が制限される中で最大の利益を生み出すモデルケースを育成します。
- ・ TACにより資源量を科学的に管理するとともに、効率的で生産性の高い操業を推進することにより、水産資源を持続可能な形でフル活用します。
- ・ 漁業共済制度やセーフティネット構築事業などへの加入を促進し、漁家経営の安定を推進します。

#### ○計画的操業の推進

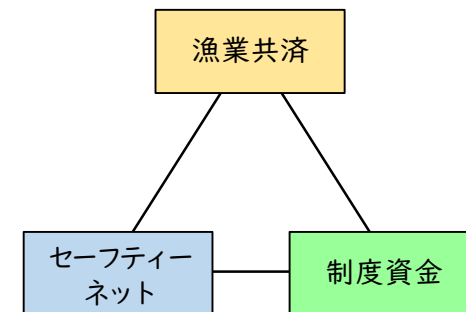
- ・ 資源の減少と値崩れによる経営の悪化を回避するため、獲れる時に獲る漁業から、価格の高い時に適量を獲る漁業への転換を推進
- ・ エビやカニ、貝類など移動の少ない魚種は、市場価格の変動を見ながら、限られた資源から最大の利益を得られるような操業（輪番制やIQなど）への転換を促進
- ・ 効率的で生産性の高い操業方法のモデルケースを育成し、普及に向けた体制作りを推進



漁獲量と魚価の変動 ※イメージ

#### ○漁家経営の安定対策の推進

- ・ 資源変動や環境変化の影響を受けやすい漁家経営の安定を図るため、公的支援制度への加入を促進
- ・ 産地市場間における共通仲買人制度を導入し、競争力の強化による市場の活性化と魚価の向上を促進
- ・ 産地市場にデジタル入札システムを導入し、業務の効率化と情報発信力の強化を推進



経営安定対策



電子荷受け



電子入札・セリ



販売システム



### (1) 次代を担う若手漁業者の育成

- ・水産カレッジを修了し一人前になった若手漁業者を「水産フレッシュアドバイザー」に育成し、相談員や講師として新規就業者を支援します。
- ・定着促進貸付金の拡充や市町の住居支援の活用とあわせ、船舶免許等の資格取得を推進し、新規就業者の定着と自立を支援します。
- ・県立大学や若狭高校と連携し、「ふくい水産振興センター」において学生や民間企業向けの研修を行い、即戦力となる水産技術者を育成します。



#### ○新規就業者の確保

- ・水産カレッジを修了して数年経った若手漁業者を、次の代の就業希望者へのアドバイスやサポートをする「水産フレッシュアドバイザー」に育成
- ・アドバイザーを就業者フェアや漁業体験に派遣し、就業希望者の相談に乗ることで不安を払しょくし、本県への就業を後押しします。



水産カレッジ



#### ○新規就業者への支援

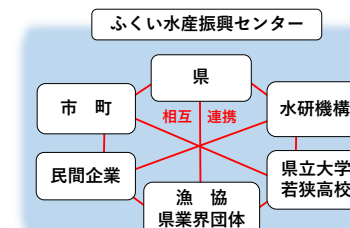
- ・扶養家族と共に移住した新規就業者への支援を拡充し、本県への定着を強力に推進
- ・船舶操縦士や無線免許等の資格取得や他漁種との兼業を推進し、若手漁業者の収入安定と自立を支援



船舶免許の講習

#### ○即戦力水産技術者の育成

- ・高校や大学の学生を対象とした共同研究や民間企業向けの研修により、本県の水産技術者として即戦力となる人材を育成
- ・セミナーやシンポジウムを開催し、本県技術者や漁協職員のレベルアップを推進



### (2) 漁業者の働く環境の改善



- ・ 養殖業や定置網漁業など、地元漁業者と民間企業等の協業体による漁業経営を促進し、経営の安定と雇用の創出を図ります。
- ・ 衝突防止装置や落水自動通報機などの安全対策と、軽量化されたスマートスーツや定置網の自動網上げ機など省力化機器の導入を進め、漁業の就業環境を改善します。
- ・ 法人化を推進し、経営の合理化と福利厚生の実施を図ります。

#### ○協業体による雇用の創出

- ・ 高齢化に伴う乗組員の減少を補うため、民間企業との協業体を組織し、幅広く雇用を確保



#### ○安全対策の強化

- ・ 3K（きつい・汚い・危険）と呼ばれる就業環境を改善するため、船の衝突防止装置や海中転落時の自動通報機器などを導入し、安全対策を強化



衝突防止装置

#### ○法人化による安定経営の推進

- ・ 民間の経営ノウハウを取り入れ、経営を安定化
- ・ 法人化により社会保険や福利厚生制度を充実させ、乗組員を安定雇用



法人化による経営統合

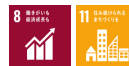
#### ○就業環境の改善

- ・ スマートスーツや自動網上げ機など省力化機器の導入を推進
- ・ 休息を十分取れるよう、漁船内の居住スペースを確保
- ・ 定休日を設定し、乗組員の健康と水産資源を確保



スマートスーツ

### (1) 新たな流通販売システムの構築



- ・ 嶺南のブランド魚を嶺北へ浸透させるため、福井市中心部へ集荷・販売される体制を整備し、販売促進と認知度向上を図ります。
- ・ 水揚げ直後の新鮮で種類も豊富なふくい魚を観て、食べて楽しめるよう、観光客がセリを間近で見学できる産地市場の整備や6次産業による加工品販売を推進し、地魚消費を拡大します。
- ・ 海外の需要が見込まれるサーモンやナマコなどの養殖生産を拡大し、輸出に向けた販路開拓を促進します。

#### ○北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた流通体制の整備

- ・ 嶺南の魚の流通量が少なくブランド魚の認知度も低い嶺北への出荷を促進し、認知度を向上
- ・ 福井市中心部の飲食店に、若狭ふぐやマハタなどのサンプルを提供することにより販路を拡大
- ・ イベントを活用して嶺南のブランド魚（若狭ぐじ・敦賀真鯛・寒ぶりひるが響など）の認知度を向上

#### ○産地市場の観光対応

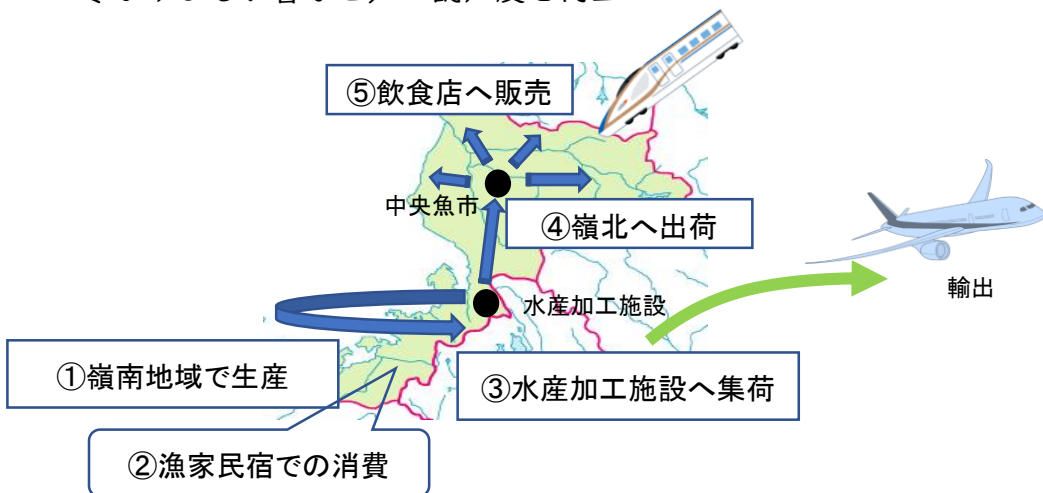
- ・ 海辺を訪れた観光客が、定置網漁業や海女漁の操業風景を観たり、迫力のある市場のセリを間近で見学したり出来るよう、施設や受入れ態勢を整備
- ・ 市場で競り落とされたばかりの新鮮な魚介類を食べることのできる地魚レストランの整備や、道の駅等における地魚加工品の販売を推進



観光客のセリ見学

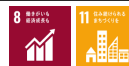
#### ○養殖魚の輸出に向けた販路開拓

- ・ 生産拡大したサーモンやナマコなどの養殖魚を海外へ輸出する販路を開拓
- ・ 輸出先国の規制等への対応に必要な鮮度管理や検疫、トレーサビリティなどの体制を整備



### (2) オリジナル食材の開発とブランド力の強化

- ・「若狭ぐじ」や「越前がれい」などに「越前がに極」に続くプレミアムブランドを創出し、本県水産物全体の知名度向上を図ります。
- ・漁獲量日本一のサワラを活用したオリジナル商品や簡単かつ美味しく食べられる加工品「ふくいのサラダフィッシュ」を開発し、消費拡大を目指します。
- ・市場調査の分析を基に、生産者の努力やこだわりを独自性の高い「ストーリー」として消費者へ発信することにより、販売促進につなげます。



#### ○プレミアムブランドの複数展開

- ・複数の県産ブランドを育成し、「越前がに」をトップに据えたプレミアムブランドとして展開することにより、本県の知名度を向上
- ・京都で有名な「若狭ぐじ」や豊洲市場で評価の高い「越前がれい」に「極」相当のプレミアムブランドを創出することにより、ブランドを全国展開



若狭ぐじ



越前がれい

#### ○オリジナル加工食品の開発

- ・本県が日本一の漁獲量を誇るサワラの加工品を開発し、価格維持と高付加価値化を促進
- ・コンビニ等で簡単に購入でき、なおかつ美味しく手軽に食べられる缶詰や「サラダフィッシュ」を開発し、消費を拡大



漁獲量日本一のサワラ



宇宙日本食サバ缶

#### ○ストーリーの発信

- ・「半夏生さば」や「天神講」など、本県に根付いている食文化を全国にPRし、販売を促進
- ・漁業者が料理人や消費者と交流することにより、生産者としての誇りを高め、神経締めや活魚輸送など商品価値の向上に向けた取組みを促進



#### (1) 渚の魅力を最大限に活かした誘客促進

- ・殺菌海水による生ガキの取扱を主要水揚げ港に拡大するとともに、貝毒検査を迅速に実施できる体制を確立し、安心・安全な生ガキの供給に努めます。
- ・地理的表示（GI）に登録された「越前がに」の国外向け情報発信を強化し、来日する富裕層向けの販売を拡大します。
- ・素潜り漁やタコつぼ漁、干物作りなどの漁業体験プランの充実や渚レストランの整備を進め、漁家民宿への誘客を促進します。



#### ○生ガキ流通システムの整備

- ・生食用のカキを流通するため、殺菌海水による一定時間の飼育と貝毒検査の体制を構築
- ・イワガキの生産拡大と並行して、県内各地で生ガキを提供できる体制を整備



生ガキ

#### ○「越前がに」の海外発信

- ・全国で初めて、ズワイガニのGI登録が認められた「越前がに」を活用し、海外への発信力を強化
- ・国際空港に到着した外国人観光客向けに多言語パンフレットを配布し、本県への誘客を促進



越前がに

#### ○漁家民宿の魅力アップ

- ・従来の定置網乗船体験や釣り船体験のほか、磯での素潜り漁体験やタコつぼ漁体験なども加え、獲れた魚介類は、さばき方教室や干物作り教室など、自分で調理・加工することにより食文化も経験
- ・漁村のお祭りや伝統行事への参加など、伝統文化に触れる体験プログラムを提供
- ・観光部局と連携し、漁家民宿への宿泊と漁業体験をエリア周遊型観光プランとして提案



さばき方教室



日向水中綱引き



#### (2) 川と湖の賑わいづくり

- ・ 釣り道具のレンタルやインストラクターの派遣により、気軽にアユ釣りを始められる環境を整備します。
- ・ 川魚のおいしさや清流の雰囲気味わえる「川床茶屋」の開設や、伝統漁法体験の充実により、川や湖への誘客を促進します。
- ・ 釣り漁場の環境整備とICTを活用した遊漁者の利便性向上により、水辺への誘客を促進します。



#### ○アユ資源の回復と釣り客の定着促進

- ・ アユの資源回復を推進するため、効果的な種苗放流手法や漁場造成方法を検討
- ・ 若い遊漁者を増やすため、初めてアユ釣りをする人が気軽に体験できるよう、釣り道具のレンタルやインストラクターによる釣り教室などを通じ、本県河川への誘客を促進



産卵場の造成



アユ釣り教室

#### ○「川床茶屋」や伝統漁法体験

- ・ 夏の川床茶屋の開設により、川魚を食べる機会を創出し、生産と消費を拡大
- ・ 伝統漁法の体験を通じ、川魚や湖の魚の美味しさを再発見する機会を作り、内水面文化の継承と誘客を促進



川床茶屋



たたき網漁

#### ○遊漁者の誘客促進

- ・ 河川敷の伐木や淵の造成など、釣り漁場の整備を推進
- ・ 電子遊漁券の導入推進により、県内共通遊漁券の設定など、遊漁者の利便性を向上



電子遊漁券

# ふくいの水産業基本計画

福井県農林水産部水産課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号  
TEL 0776-20-0435  
FAX 0776-20-0653  
E-mail [suisan@pref.fukui.lg.jp](mailto:suisan@pref.fukui.lg.jp)

## 越前かに

